

第 2 期北本市まち・ひと・しごと創生総合 戦略に係る実績報告

地方創生について

目 的

地域の持続的な発展を目指し、地域内の人々がその土地で安心して暮らし、働き、育てることができる社会を創りあげることであり、「人・地域・仕事」の3つの要素を結びつけながら、さらにDXやSDGsなどの観点を取り入れて、地方の特性や資源を最大限に活用しながら地域に活力を生み出していく

経 緯

- 平成26年 5月 日本創成会議より、いわゆる「増田レポート」公表
- 平成26年11月 国において「まち・ひと・しごと創生法」を制定
→ 国と地方が一体となり、総合的かつ計画的な地方創生の取組を行うため、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定
- 平成28年 3月 **「北本市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定**
- 令和 元年12月 国において「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定
→ 新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、令和2年12月に改訂
- 令和 4年 3月 **「第2期北本市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定**
- 令和 4年12月 国において「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を策定
→ デジタル技術の活用によって「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」の実現を目指す
- 令和 7年 6月 国において「地方創生2.0基本構想」を策定
→ 「強い」経済と「豊かな」生活環境の基盤に支えられる多様性の好循環が「新しい日本・楽しい日本」を創る
- 令和 7年12月 国において「地方創生に関する総合戦略～これまでの地方創生の取組のフォローアップと推進戦略～について」を閣議決定（「デジタル田園都市国家構想総合戦略」から変更）
- 令和 8年 2月 **「第3期北本市総合戦略」を策定**
- 令和 8年 7月 国において「地域未来戦略」を閣議決定（「地方創生に関する総合戦略」を変更）
→ 強い地域経済の構築に重点を置いた新たな取組に加え、これまでの地方創生で進めてきた取組も含めた全体戦略とする

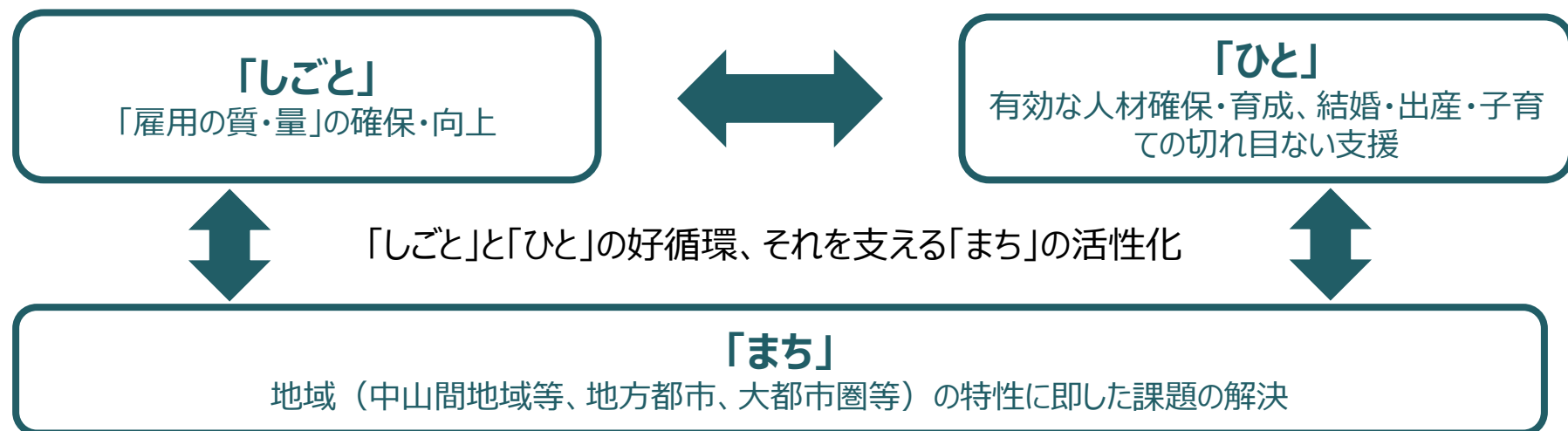
まち・ひと・しごと創生総合戦略について

概要

- まち・ひと・しごと創生法第8条の規定により、国は「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定
- 全国で少子高齢化・人口減少が急速に進む中、東京圏への過度の人口集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくことを目的とする

基本的な考え方

- 地方における安定した雇用の創出や、若い世代が安心して生活を営み、子どもを産み育てられる社会環境をつくり出すことで、人口減少に歯止めをかける
- 「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環を確立することで、地方へ新たな人の流れを生み出し、それを支える「まち」に活力を取り戻す



第2期北本市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

概 要

- 令和元年12月に国において策定された、「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」や令和3年6月に定められた「まち・ひと・しごと創生基本方針2021」を踏まえ、令和4年3月に「第2期北本市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、「活力ある地域社会」の実現を目指す。
- 第五次北本市総合振興計画後期基本計画と一体的に策定し、推進していくことで、地方創生の実効性を高める。

目 標

基本目標1 稼ぐ産業と安定した雇用を創出する

基本目標2 新しい人の流れとつながりをつくる

基本目標3 若い世代の出産・子育ての希望をかなえる

基本目標4 ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる

横断的な目標1 多様な人材の活躍を推進する

横断的な目標2 新しい時代の流れを力にする

計画期間

令和4年度から令和7年度（4年間）

令和7年度実績報告について【基本目標1】

基本目標1：稼ぐ産業と安定した雇用を創出する

数値目標の状況について

数値目標	区分	現状値	目標値	R3	R4	R5	R6	R7
就業者一人当たり市内純生産	成果	431.5万円 (H30)	438.3万円	385.9万円	385.9万円	436.2万円	429.6万円	455.3万円
市内有効求人倍率	成果比較	－	1.24倍	－	0.48倍	0.49倍	0.54倍	0.42倍

達成状況・要因及び対策等

- 就業者一人当たり市内純生産については、**達成**
現時点では令和5年度のデータが最新。今後もデータを注視するとともに、農商工業における担い手の確保や事業継承等の取組を推進していくことで、市内純生産額の増加を図っていく。
- 市内有効求人倍率については、**未達成**
求人倍率は、コロナ禍以前の水準にはまだ戻っていない。今後も引き続き、雇用・就労のための相談体制や機会の充実を図っていく。

令和7年度実績報告について【基本目標2】

基本目標2：新しい人の流れとつながりをつくる

数値目標の状況について

数値目標	区分	現状値	目標値	R3	R4	R5	R6	R7
ふるさと納税寄附件数	成果比較	3,908件	8,000件	6,128件	7,295件	8,790件	11,318件	10,687件
25歳から34歳までの女性の社会増減	成果	-40人 (H30～R2 平均値)	0人	5人	59人	50人	70人	38人

達成状況・要因及び対策等

- ふるさと納税寄附件数については、**達成**
引き続きポータルサイトの充実や、PR広告を実施し、寄附件数の維持と増加を図っていく。
- 25歳から34歳までの女性の社会増減については、**達成**
転入の理由は様々考えられるが、本市のシティプロモーション推進方針のメインターゲットとしていることから、今後も増やしていけるよう事業を引き続き実施していく。

令和7年度実績報告について【基本目標3】

基本目標3：若い世代の出産・子育ての希望をかなえる

数値目標の状況について

数値目標	区分	現状値	目標値	R3	R4	R5	R6	R7
市の子育て支援策が充実していると思う子育て世帯の割合	成果	74.3%	75.0%	—	74.3%	71.1%	74.8%	81.0%
出生数	成果	340人	380人	351人	325人	281人	296人	294人

達成状況・要因及び対策等

- 市の子育て支援策が充実していると思う子育て世帯の割合については、**達成**
今後も各子育て支援サービスの利用しやすさの改善を図り、子育て支援策の充実を図っていく。
- 出生数については、**未達成**
子育て世代の社会増が出生数の増加に繋がることから、シティプロモーション推進方針に基づき、引き続き若い子育て世帯をターゲットとした事業を実施していく。

令和7年度実績報告について【基本目標4】

基本目標4：ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる

数値目標の状況について

数値目標	区分	現状値	目標値	R3	R4	R5	R6	R7
65歳健康寿命	成果比較	男性:18.43年	男性:19.00年	男性:18.88年	男性:19.06年	男性:18.74年	男性:18.47年	男性:18.47年
		女性:20.72年	女性:21.50年	女性:20.91年	女性:21.32年	女性:21.23年	女性:21.01年	女性:21.01年
地域活動に参加している市民の割合	成果	34.2%	35.0%	29.6%	11.4%	23.8%	24.2%	37.3%
安全で安らげるまちなみとなっていると思う市民の割合	成果	57.6%	60.3%	59.2%	59.1%	56.4%	59.3%	60.0%
温室効果ガスの総排出量（市全体）	成果比較基準値	272,000t	246,500t	254,000t	242,000t	245,000t	250,000t	247,000t
災害による負傷者数および死亡者数	成果比較	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

令和7年度実績報告について【基本目標4】

基本目標4：ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる

達成状況・要因及び対策等

- 65歳健康寿命については、令和6年度実績において、男性及び女性ともに**未達成**
引き続き、疾病予防や早期発見への意識を高めるため、普及啓発活動に取り組むことで、健康寿命の延伸に努めていく。
- 地域活動に参加している市民の割合については、**達成**
就労年齢の拡大や女性の就労率の向上により、地域の活動に参加できる人が減少しているが、自治会加入促進チラシ・プロモーションビデオ・加入促進マニュアルの作成等により、改善を図った。今後も引き続き、自治会連合会の研修等の機会を通じて、若年層等の参加が増えている自治会などの事例を紹介する等、活発な自治会活動・コミュニティ活動が展開されるよう支援していく。
- 安全で安らげるまちなみとなっていると思う市民の割合については、**未達成**
近年の気候変動、台風や大雨等の自然災害からくる不安、空き家の増加による住環境の劣化、開発による雑木林の減少などが要因と考えられることから、引き続き、関係課と連携しながら改善を図っていく。
- 温室効果ガスの総排出量（市全体）については、**未達成**
地球温暖化の影響で夏場の電力需要が増加したことが一因と考えられる。引き続き再エネ補助金の交付や、ごみ排出量の削減に取り組んでいく。
- 災害による負傷者数および死亡者数については、**達成**
今後も負傷者数及び死亡者数を出さないよう、防災減災意識の高揚や地域防災力の向上に取り組んでいく。

令和7年度実績報告について【横断的な目標 1】

横断的な目標 1：多様な人材の活躍を推進する

数値目標の状況について

数値目標	区分	現状値	目標値	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
地域に学習の機会と場がある児童・生徒の割合	成果	児童：48.6%	児童：60.0%	—	児童：41.4%	児童：44.5%	児童：41.7%	児童：70.7%
		生徒：26.2%	生徒：60.0%	—	生徒：22.8%	生徒：27.1%	生徒：18.7%	生徒：74.1%
市民参画 手続に参画した人数	成果	1,741人	2,000人	2,377人	2,192人	3,012人	4,856人	4,268人
協働により 実施した事業の件数	成果	1件	2件	1件	0件	0件	0件	1件
地域活動に参加している市民の割合	成果	34.2%	35.0%	29.6%	11.4%	23.8%	24.2%	37.3%

令和7年度実績報告について【横断的な目標 1】

横断的な目標 1：多様な人材の活躍を推進する

達成状況・要因及び対策等

- 地域に学習の場と機会がある児童・生徒の割合については、**達成**
児童については、引き続き放課後子ども教室、学童保育室等の事業を推進していく。生徒については、部活動、学習塾を利用している子が年々増加しているため、地域の人たちと接する機会が減ってきているが、子どもたちの地域での過ごし方について、ニーズにあわせた対策について検討していく。
- 市民参画手続に参画した人数については、**達成**
市民参画手続きのうち、アンケート調査による場合が多くを占めており、他市と比べ、回答率が高いことが要因と考えられる。引き続き、市民参画手続の適切な実施に努めるよう周知していく。
- 協働により実施した事業の件数については、**未達成**
協働事業提案制度について、市HP等での周知により、改善を図った。引き続き、制度の周知に取り組んでいく。
- 地域活動に参加している市民の割合については、**達成**
就労年齢の拡大や女性の就労率の向上により、地域の活動に参加できる人が減少しているが、自治会加入促進チラシ・プロモーションビデオ・加入促進マニュアルの作成等により、改善を図った。引き続き、自治会連合会の研修等の機会を通じて、若年層等の参加が増えている自治会などの事例を紹介する等、活発な自治会活動・コミュニティ活動が展開されるよう支援していく。

令和7年度実績報告について【横断的な目標 2】

横断的な目標 2：新しい時代の流れを力にする

数値目標の状況について

数値目標	区分	現状値	目標値	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
AI・RPA等のデジタル技術を活用した件数	成果	11件	20件	14件	17件	17件	17件	12件

達成状況・要因及び対策等

- AI・RPA等のデジタル技術を活用した件数については、**未達成**
RPAについて、業務の効率化を目的に導入・運用していたが、シナリオ作成やメンテナンスに時間を要すること等、総合的にみて費用対効果が低いことから、当該事業を廃止したことにより件数が減少した。
今後については、生成AI等の活用により、業務の効率化を図っていく。

第2期北本市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価について

【総括】

全体の達成状況

数値目標	1	2	3	4	5	達成率	向上率
基本目標 1	達成	未達成 (悪化)	－	－	－	50%	50%
基本目標 2	達成	達成	－	－	－	100%	100%
基本目標 3	達成	未達成 (悪化)	－	－	－	50%	50%
基本目標 4	未達成 (向上)	達成	未達成 (向上)	未達成 (向上)	達成	40%	100%
横断的な目標 1	達成	達成	未達成 (横ばい)	達成	－	75%	75%
横断的な目標 2	未達成 (向上)	－	－	－	－	0%	100%

➤ 令和7年度（計画最終年度）における達成率

56.3%

➤ 令和7年度（計画最終年度）における向上率
※向上率…目標を達成、または基準値より改善した指標の割合

81.3%